

令和5年度鹿児島市中学校新人剣道大会 申し合わせ事項

鹿児島市中学校剣道部顧問会

本大会は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則、同細則、同運営要領および「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」、「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法運用事項及び解説」ならびに下記の申し合わせ事項により実施する。

【剣道試合・審判規則に関わる事項】

- 1 サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）
 - (1) 医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。
 - (2) サポーター等は、肘、膝などにつける物を足につけたり、ゴムや革および滑り止めを底に貼った物等の使用を禁止する。禁止されたものを使用した場合はその場で外させる。
- 2 面
 - (1) 面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。ただし、日常の稽古や練習試合での使用については特に制限を設けない。
 - (2) 面乳革は大きさ、模様を含めて華美にならないように配慮し、黒色または紺色とする。
 - (3) 面紐の長さは結び目より 40 cm以下とする。長い場合は試合の前後で切らせる。面紐の結び目の位置が高く、危険が予測させる場合には付け直させる。
- 3 竹刀
 - (1) 平成 10 年 11 月 10 日付全剣連指導指針「竹刀の先革先端最小直径値計測方法」による。
 - (2) 平成 31 年 4 月 1 日改正，全剣連剣道試合・審判運営要領「ちくとうの最小直径値の計測方法」による。
 - (3) 不正竹刀を使用した場合は、試合規則第 19 条を適用する。団体戦のトーナメント戦で不正使用があった場合、その試合は相手に 2 本を与える。次の試合から補員の出場を認める。
決勝リーグで不正竹刀の使用があった場合、決勝リーグに補員は出場できない。
 - (4) 不正竹刀とは「ビニールやセロテープを巻いた物」「異物（先革の芯、柄頭のチギリ以外の物）を混入した物」「検印のない物」を指す。
 - (5) 柄革は、模様等のない無地の物で、滑り止め（ゴム等）がついた物の使用を禁止する。
 - (6) つばについては、革色の物（白色も可）を使用する。それ以外の物を使用している場合は、その場で取り替えさせる。
- 4 公正を害する行為
 - (1) 「変形な構え等の防御態勢」をとった場合は、1 回目は「合議」の上、「指導」、2 回目以降は「合議」の上、「反則」とする。
 - (2) 試合の公正を害する行為や不当な押し出し、抜き胴への足かけ、「かち上げ」「振り倒し」等の危険な行為に対する反則は厳格にとる。その場合、主審の宣告に際しては教育的配慮により選手にわかるように説明する。また、他の件で合議し、反則を取る場合も取らない場合も両者に説明する。
- 5 突き技
禁止として反則とすることもある。（技としては反則とする）
- 6 上段
上段の構えはとらせない。隻腕の選手については専門委員会および監督会議の中で協議する。
その際、日本中体連申し合わせ事項解説の「隻腕についての共通理解事項」を参考とする。
- 7 二刀
使用させない。

8 片手打ち

有効打突としない。

9 試合開始

主審の「始め」の宣告で完全に立ち上がって開始させる。(不適切な場合は指導する)

10 主審の宣告

反則の宣告が簡略化されたが、(公財)日本中体連剣道専門部では「第3章第37条」～特に宣告に際し必要を認めた場合は、その理由を述べる～を教育的配慮として適用する。

【試合運営に関わる事項】

- 1 団体戦では、先鋒戦および最後の試合者の対戦の場合、監督・コーチ・選手ともに正座する。個人戦においての監督・コーチも同じとする。
- 2 監督・コーチ・選手以外の試合場への入場は禁止する。監督・コーチは監督証・コーチ証を付け、選手席に入る。選手席入りに関しては以下のとおりとする。
 - (1) 団体戦：原則として監督は選手席入りすることが望ましいが、試合進行の関係上、監督が選手席入りできない場合はコーチのみの選手席入りも可とし、異議申し立ても認める。
 - (2) 個人戦：団体戦と同じとする。
- 3 疑義のある場合は、当該者の試合終了(相互の礼)までに監督が(設置してある赤旗を揚げ)その試合場の審判主任もしくは審判長に異議を申し出ることができる。コーチによる異議申し立てはできないが、同校生徒の試合が2試合場以上で同時に行われ、監督不在になった場合に限り認める。
- 4 試合場への時計の持ち込み(監督・コーチの腕時計やビデオ、タブレットを含む)、及び監督・コーチからのサインなどによる指示等は禁止する。また、応援は拍手のみとする。
- 5 所作等については、以下の行為は行わない。
 - (1) 団体戦の礼の前後の大声やパフォーマンスなど。
 - (2) 選手交代時の胴や拳のつつきなど。
 - (3) 選手席でのタッチやオーバーアクションなど。
- 6 団体戦において、選手がオーダー順を誤って試合を行った場合、その場合は無効となり、対戦相手の二本勝ちとなる。その後の試合については正しいオーダー位置に戻して試合を行わせる。ただし、試合終了(相互の礼)後に異議を申し立てることはできない。
- 7 監督・コーチ・選手は所定の場所(競技場内)で待機し、係の指示に従う。選手呼び出し後5分以内に試合場への入場がない場合は棄権とみなし、不戦敗とする。

【その他の事項】

- 1 校名・校章等の刺繍(剣道着・袴)は大きさ・色を含めて華美にならないように配慮する。道場名の記入された剣道着や袴の使用は禁止する。また、試合場判定に支障をきたすような剣道具への刺繍や紋章等をつけない。
- 2 礼法について、蹲踞の「始め」と「終わり」を正確・丁寧に行うこととする。
 - (1) 「始め」抜きながら蹲踞する。
 - (2) 「終わり」納刀した後、右手を右太股においてから立ち上がる。